

血液凝固分析装置 FibCare

産科危機的出血時の診断、治療、搬送判断が
迅速且つ明確になりました。



平成6年に開業、平成20年より木村聡先生が副院長として赴任、平成28年より院長に就任。「安心な妊娠生活、安全な分娩の提供」をモットーにしている。

モニター機器の充実、スタッフの技術および知識の研鑽を実施、近隣の総合病院との密接な連絡、協力体制など安全対策に力をいれるだけでなく、妊婦および家族の気持ちに寄り添った医療の提供を考え、アメニティの充実、硬膜外麻酔による無痛分娩を推奨、家族入院の受け入れ、託児室（保育士常駐）の完備などを実施している。妊娠・出産だけでなく、更年期障害、月経不順、思春期の問題、婦人科疾患などお産以外の患者さんも診られる体制を整えて、QOLを維持できるような女性のライフサポートをしていく医療施設として活動している。

静岡県浜松市北区東三方町94-3

お話を伺った方



木村産科・婦人科
院長

木村 聡 先生

FibCareの導入理由

浜松医科大学に勤務していた時に、金山尚裕教授の指導のもと羊水塞栓症に関する研究をしていました。また妊産婦死亡症例検討評価委員会にも委員として参加し、産科危機的出血の症例では、治療の遅れが死亡につながっていること、フィブリノゲンが重要なバイオマーカーであることを理解していたため、以前から自施設でもフィブリノゲンの測定をしたいと思っていました。

当院は、総合病院のようなマンパワーも医療機器もありませんが、診療ガイドライン、エビデンスに基づく治療を心掛けています。「産科危機的出血への対応指針 2017」に、産科危機的出血の判断値として「単独でフィブリノゲン 150mg/dL以下」が追記されたこともあり、導入を決めました。

- 産科的危機出血では、判断の遅れが死亡事例につながることもある。
- 迅速な判断にはフィブリノゲン測定が有効である。

測定ワークフロー

分娩時には、出血量、ショックインデックス(以下SI)を常に確認するようにしています。羊水塞栓型の産科DICの場合には、時としてSIが1未満、出血量がそれほど多くないにも関わらずフィブリノゲンが枯渇していることがあるため、「何かおかしい?」という気付きも大切にしています。

現在では、出血量が約1L以上になった時や何かおかしいと感じた時に「Fib Care」を使ってフィブリノゲン測定を行っています。

当院でフィブリノゲンを測定する際には、EDTA採血管(血球算定用)とヘパリン採血管(フィブリノゲン測定用)に採血を行い、血球算定の結果で得られたHt値をFibCare測定の際に利用しています。FibCareは、ナースステーションに設置し、機器の横に貼った測定手順を見ながら測定しています。

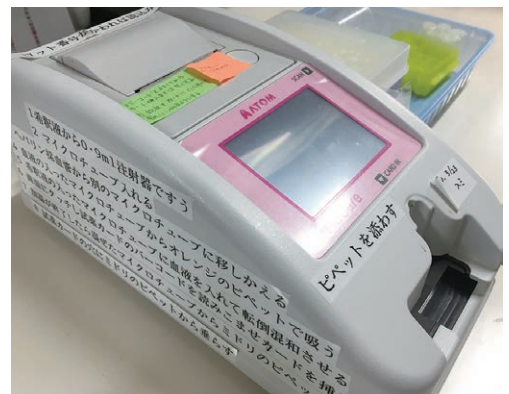


写真1 ナースステーションに設置しているFibCare

FibCareはマイクロピペットを使用しなければなら
ないため、マイクロピペットを含めた製品トレーニング
が必要でしたが、比較的スムーズに測定ができるよう
になりました。測定している助産師・看護師からは、
測定に対して「面倒だ…」「やりたくない…」などネガ
ティブな声はなく、「安心」「便利」というポジティブな
感想を聞いており、導入して良かったと思っています。

- 出血量が約1L以上になった時や何かおかしいと
感じた時にフィブリノゲンを測定している。
- 製品トレーニングを受けることで、比較的スミ
ーズに測定ができるようになる。

導入後の効果

FibCare導入後間もなく、産後出血が止まりにくい
症例(第3子の出産)があり、「産科DIC?」と思いFib
Careで測定した結果は「<50mg/dL」でした。SIも
1未満、出血量は1000mL程度でしたので、「まさか
そこまで下がっていないのでは?」と思い再測定しま
したが、やはり「<50mg/dL」、直ぐに緊急搬送を決め
ました。搬送連絡時に、「フィブリノゲン値50mg/dL
以下のため、産科DICだと思う」と伝えることができ、
患者到着直後から積極的な治療を開始できたと考え
ています。幸いにも患者さんは既に退院し、元気に育児
をされていますが、判断、治療が少しでも遅れていたら、
患者さんが命を落としていたかもしれない症例だった
と思います。また出血量が1500mLとかなり多い別の
症例では、結果が200mg/dL以上だったため、搬送
はせず自施設にて輸血などの治療を行いました。

FibCareの導入により、エビデンスに基づいた迅速
診断・治療・搬送判断が行えるようになり、当院のモツ

トである、より安全な
分娩が提供できるよう
になったと思います。また、
サポートで来てくださっ
ている他施設の先生方から
も「1次施設でフィブリノ
ゲンが測定でき、安心だ」
と評価していただき嬉し
く感じています。



写真2 施設の廊下に掲示している
「医療安全宣言」

- FibCareを導入したことにより、エビデンスに
基づいた迅速診断・治療が可能になった。
- 搬送の判断も明確になり、安全対策の質が向上
した。

検査費用

一回当たりの測定に約1000円かかりますが、現在
の診療報酬の点数ではカバーできず、大部分が施設の
持ち出しになります。しかし、「安全な医療の提供」
「命を救うため」には、必要だと考えています。測定
する機会は月に数回であること、また、エビデンスに
基づいた迅速診断・治療が可能になるため、計算は難
しいと思いますが、診断時間の短縮、治療の効率化の
面から医療経済的にもメリットがあると思います。

- 検査費用の大部分は施設の持ち出しになるが、
「安全な医療を提供」「命を救うため」には必要
だと考えている。

フィブリノゲン
測定
約2分

血液凝固分析装置

FibCare

POCT フィブリノゲン分析装置

■アニメーションで案内をする
シンプルな操作手順

■見やすい結果表示

■ワンカートリッジ試薬
・単回個装・試薬調製不要

■A4サイズ以下
・W146×D265×H117mm